

令和4年度 学校評価結果報告書

学校番号	47
学校名	弘前実業高等学校
課程	全日制の課程

自己評価実施日	令和4年12月16日(金)
学校関係者評価実施日	令和5年1月30日(月)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
学校評議員会(5名) 地域産業界(3) 元本校職員(1) 元本校保護者(1)	

(1) 学校教育目標	本校は、農業、商業、家庭並びに体育に関する学科を有し、専門的な学習や実践的な活動を通して、人間性豊かで、社会に貢献できる人材の育成を目的とした男女共学の総合専門高等学校である。各学科において、それぞれの特色を十分に発揮するとともに各学科の連携による幅広い視野を育成し、部活動や資格取得等に励み、「歩歩清風」を礎としながら多様性を認め協働する力を培い、生徒一人一人のあらゆる可能性を陶冶させ、生涯を通じて「生命(いのち)と価値(ねうち)」を探究する人間の育成を目指す。
------------	---

(2) 現状と課題	本校生徒の多くは専門的な知識の習得に励むとともに、部活動にも精力的に取り組み成果を上げている。一方、生徒は様々な分野に潜在能力を秘めているが、コロナ禍の影響もくわわり、現状に甘んじる傾向にある。生徒の能力・意欲を引き出すために各科及び各教科の横断的な指導の工夫をはじめ、学校生活全般の活性化が必要である。そのため、教職員の共通認識・理解を図り、生徒の持っている潜在能力を引き出し、さらに伸張させる全教員連携の教育活動の充実を図りたい。
-----------	---

(3) 重点目標	1. 授業第一主義を掲げ、学習に取り組む主体的態度の育成及び基礎学力の定着と向上を図り、有益な各種検定資格や職業資格の取得を目指す
	2. 自らを律することのできる自律心の育成及び郷土に愛着を持ち、地域を支え、地域を振興・発展させる人材を育成するための教育活動
	3. 個々の生徒の資質・能力・適性の伸長を図りながら進路目標達成のための進路指導体制の強化
	4. 礼節を第一に重んじ、多様性を尊重し、他者と協調して生きる態度や困難を克服するための逞しさを身につけるための部活動のさらなる活性化

(4) 結果の公表	学校ホームページでの公表
-----------	--------------

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	(1)基礎学力の定着及び学科特有の資格取得と技能の育成 (2)特色ある授業の推進	①生徒の進路志望等に即した弾力的な教育課程の編成 ②学科間の横断的な指導及び交流を踏まえた総合選択制の効果的な運用 ③少人数制学習指導の推進 ④各種検定資格の取得に向けた取組の推進 ⑤校内外における研修の推進	①生徒の進路志望に応じた選択科目・総合選択制に重点を置き検討・設定を行った(新教育課程) ②総合選択制では、進路希望を取り入れた開設科目の検討・設定及び運営方法を検討した。 ③数学科及び英語科等で個別指導の機会を多くするため少人数での学習指導を行った。 ④各学科において、有益な検定資格取得に向けての指導を行った。 ⑤公開授業週間を設け、お互いの授業改善の工夫に努めた。またICT活用の機会が増え、生徒の理解度も深まった。	B	・外部の力をうまく活用しながら大きな成果を上げていると感じた。 ・生徒の様子は落ち着いていて、いい雰囲気だと感じた。 ・課題研究等で各科の特色ある活動の取り組みが感じられるとともに外部へその成果を発表しているところが素晴らしい。 ・外部との連携で各科特色ある授業が行われている。 ・全校での農業経営科の閉科式は素晴らしい。閉科は本当に残念であるが、今後、他の科が農業経営科の分も盛り上げてほしい。	・基礎学力定着に関し、少人数制も含め引き続き、力を注ぐ必要がある。 ・本校特有の総合選択制のメリットを生かし、教科横断的な指導の工夫など、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ・あおり創造学を念頭に「総合的な探究の時間」及び「課題研究」の指導の中で学科間連携を深め、探究型学習のさらなる充実を図る。 ・新教育課程2年目に当たり、その検証を行う。 ・さらなるICTの活用のため、教員の校内研修の推進を図る。
2	(1)心の結びつきを基調とした挨拶・容儀・言葉遣い等の習慣化及び自律心の育成を目指した指導の充実	①毎日の登校時指導による挨拶の励行 ②定期的な服装容儀指導の実施 ③遅刻指導 ④全教員による生徒指導体制の構築 ⑤教育相談の充実	①登校時の教員による声かけ活動など、年間を通じた継続指導によって基本的な生活習慣が身に付き、挨拶や服装容儀に改善が見られた。 ②生徒の時間を守るという意識が向上している。 ③学校全体として落ち着いた教育活動が行われている。 ④コロナ禍で悩みを抱える生徒が増えているが、スクール・カウンセラーの活用や教育相談委員会での情報共有を通じて、指導の充実が図られた。	A	・爽やかな挨拶をしてくれる生徒が多く、気持ちよい。非行問題も少なく、部活動も一生懸命やっているようだ。基本的なものを捉えて、今後も頑張ってもらいたい。 ・コロナ禍で生徒たちは生活様式の変化から、違った感覚を持ち始めていると思うが、今後も心に寄り添い指導を継続していただきたい。 ・修学旅行をはじめ、多くの行事が行われたことは良かったと思う。	・コロナ禍で希薄になりつつある心の結びつきについて指導に努める ・分掌と学年の組織的活動及びその繋がりを実感できるような指導体制を構築する。 ・今後も生徒の学校生活の様子や社会状況を考慮しながら、全教員による指導の充実を努める。 ・コロナ禍で心の不調を訴える生徒が多く、スクール・カウンセラー活用は非常に有益であった。今後も連携し、生徒の心の成長を見守る態勢作りを努める。
3	(1)一人一人の資質・能力・適性等を把握した個に応じた進路指導の充実	①進路ガイダンスや進路講演会の実施、企業や学校の見学会や説明会への参加奨励 ②進路資料室の開放、進路相談の充実 ③進路志望調査、進路情報交換会の実施 ④放課後や長期休業中の進路講習や公務員講習の実施、面接・小論文対策講座の開催	①進路実現にむけての進路意識の高揚を図り、主体的な進路選択ができるよう促した。また就業体験にも取り組んだ。 ②多様な就職・進学に関する各種情報の提供を行った。 ③生徒一人一人の資質・適性・能力に応じた進路志望の実現ができるよう、助言・指導を行った。 ④受験に対応できる力の養成を教員全員で取り組み、進路志望実現に向けて取り組んだ。	A	・地域で弘実の卒業生の活躍が感じられる。挨拶がしっかりして人あたりも良く、評価が高い。授業や部活動での指導と思われるが、当たり前のことを当たり前でできない若者も増えている。今後も指導をお願いする。 ・社会人として、笑顔とコミュニケーション能力は大切なものであり、人間関係を構築するために欠かせないものである。コロナ禍にあって生徒の感覚が違ってきていると思うが、今後も育んでいきたい。	・進路の早期決定を図りながら、学年・学科・部活動顧問との情報共有及び連携をさらに強めることにより、生徒一人一人の進路実現を目指す。 ・情報収集、収集手段と的確な確認方法の指導を行う。 ・専門高校としての進路指導の在り方について、教職員間の共通理解・共通行動を図る。 ・数年にわたり整備してきた外部講師による公務員講習の一層の充実を図る。
4	(1)部活動のさらなる活性化	①生徒の力を十分に引き出すための部活動の環境整備の推進 ②競技力向上を目指した取組への積極的な参加	①グラウンドの設備補修など、運動部活動の環境整備に努めた。 ②コロナ禍での限られた時間を有効に活用するとともに、科学的なトレーニング方法の積極的な導入に努めた。	B	・全体的に頑張っているが、まだまだ上の成績を目指してもらいたい。指導も大変だと思うが、高校時代の最も大切なことは体験とその思い出作りである。制約があったコロナ禍の活動であったが、よく指導していただいたと思っている。引き続き、指導をお願いしたい。	・部活動においては、勝利至上主義に走らず、他者と協調して生きる態度や困難を克服する逞しさ、目標に向かって共に支え合う心を育成する本校の基本方針を再度確認しながら指導を進める。

(11) 総括	基礎学力の定着において、各科ごと及び生徒の理解度に応じた学習指導を展開するなど、「授業第一主義」の実践に教員が取り組んでいる。来年度に向けては、さらなるICTの活用に重点を置き、興味・関心を引き出し、工夫を凝らし、生徒が主体的、対話的に学習できるような授業改善を教員に求めていきたい。また特色ある授業の推進では、「あおり創造学」の趣旨を念頭に「課題研究」「総合的な探究の時間」において、その学習成果を外部発信し、生徒の意欲高揚につなげた。来年度はさらに外部(地域連携)を意識した学習課題の設定をするとともに総合専門高校という本校の特色を活かし、学科間の連携を充実させる必要がある。 4部6学科を有す本校で、生徒の意識・意欲を一つの方向にまとめるためには、生徒指導が共通の土台となるため、部活動の指導を基盤として、教職員が一丸となって基本的な生活習慣の確立と道徳性を養うことを一層充実したいと考える。また、その活動の結果が生徒の多様な進路希望達成につながることを考える。 本校の教育の柱は、学科の専門性を探究することと調和のとれた人づくりにあつた部活動を推進することである。引き続き今後も、生徒に寄り添いながら愛情を持って接し、専門職としての自覚と誇りを持ち、生徒の素質を引き出すことを教師像として掲げ、社会に貢献できる人材の育成を目指す。 また、様々な制約がある中で、昨年度以上にそれぞれの科独自の活動の展開に取り組み、マスコミ等を通して成果を発表できたことはコロナ禍にあって、生徒の自覚と自信につながったと感じている。
---------	---